複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

底建網漁業改善調査

(妙 録)

原子 保

はじめに

底建網漁業の漁業実態から、現状における問題点を見出し、将来にわたってより現実的な操業を実施するための調査を行う。

結 果

1. 漁獲量

春期は水深の深い網の漁獲量が多く、秋期は浅い網のほうが多かった。

2. 漁獲尾数

時期に関係なく水深の浅い網での漁獲尾数が多かった。

3. 魚体

平均魚体は、ヒラメとミスダコを除き水深の深い網で漁獲した魚種の魚体が大きかった。

4. 平均単価

時期に関係なく深い網で漁獲された魚種の単価が高かった。

5. 投棄魚

水深の浅い網では、全漁獲量の25～35%に達したが、深い網では、1%にも満たなかった。

ま と め

底建網は、操業時期、海域、網口の方向、水深等によって魚種や漁獲量が大きく異なるが、小型魚の漁獲比率は、明らかに浅い水深で高く、いわゆる『資源管理』に逆行する操業形態となっていた。

これを改善するには、操業海域を現状より沖出しして、より深い海域での操業を実施し、小型魚の漁獲を削除することが抜本的な対策である。

また、すべての漁業者が平均的な収入を得る可能性を確保すること、親魚や産卵場所を自主的に保護できるような余裕のある漁場の設定が『資源管理』にとって不可欠である。